



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3418 号 2016.12.22 発行

高齢者の急病も検知 「見守り」腕時計 セコム来夏から



朝日新聞 2016年12月22日
セコムが来年夏に投入する腕時計型のウェアラブル端末「セコム・マイドクターウォッチ」=東京都渋谷区のセコム本社

警備大手セコムは21日、高齢者らが急病で倒れたことなどを検知する腕時計型の端末「セコム・マイドクターウォッチ」を開発したと発表した。この端



末を活用し、緊急時に職員を急行させるといった新サービスを来年夏に始める計画だ。

端末に内蔵された加速度センサーと人の動きを分析する独自のアルゴリズムを組み合わせ、利用者が転倒したり、意識を失ったりした状態を検知する。

新サービスでは、端末が異常を検知したとき、住宅警備システムやスマートフォンを経由してセコムに自動的に通報。職員が利用者の自宅に駆けつけたり、救急車を手配したりする。

端末には1日の運動量や睡眠状態などを記録する機能もあり、スマホのアプリや血圧計などと連動させて健康管理にもつなげる。

新サービスは、住宅警備サービスの加入者が利用できるようにする予定。端末を貸し出す方式で、月額利用料は千円以内に抑える方針だ。記者会見で中山泰男社長は「健康をセコムする。1年で3万人の利用を目指す」と話した。(和気真也)

家族が認知症になったとき、やってはいけないNG行動



日経 Gooday 2016年12月22日
年末年始、久しぶりに実家の両親に会う人も多いだろうが、両親など身近な人が認知症になったとき、ついとってしまいう行動や言動が、認知症の人を傷つけ、症状を悪化させてしまうことがある。どのような行動がNGなのか。東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム研究員の伊東美緒氏の話をもとに解説する。
一つひとつはささいなことでも、積み重なると小言を言いたくなるもの。

の。だが… (c) Darl Hurst 123-rf
■細かい指摘や小言は、逆効果

認知症の初期では、まだ認知機能が保たれているので、一人でも日常生活を行える。しかし、何事も完璧にこなせるというわけにはいかない。

例えば、認知症になると、初期の段階から、燃えるごみの中にアルミ缶を入れてしまう、食器に洗剤が付いたまま、うっかり食器かごに上げてしまうといったささいな失敗が、増えてくる。問題は、そんなときの家族の対応だ。

失敗が何度か続くと、「ゴミはきちんと分別してよ」「ちゃんと洗剤を落とさないでだめでしょう」と、細かく指摘してしまいがち。家族としては、きちんとした生活に戻ってほしくて言うわけだが、この行為はむしろ逆効果になると東京都健康長寿医療センター研究所の伊東美緒氏は話す。

「認知症の初期は、ご自身だけでなく、ご家族も認知症を認めたくない傾向があります。そのために、ご家族がしてしまう行動の中には、認知症の人を混乱させてしまうものがあります。失敗を細かく指摘する行為もその一つです。認知症のタイプにもよりますが、アルツハイマー型認知症の場合、実際にはできていなくても、自分ではちゃんとできているつもり、という場合が少なくありません」と伊東氏。

つまり、家族がよかれと思って言ったことでも、認知症の本人にとっては、「私が食器を洗ってあげているのに、なんで文句ばかり言うんだらう」と納得できない状態なのだ。これが続くと、「うるさい！」という反応になって、口論につながってしまう。

「認知症の人は、言語機能も衰えてくるので、口論になっても、言葉数ではなかなか勝てません。そのため、イライラが募り、『もういい、出ていく』と飛び出してしまったり、あるいは“自分ではやっているはずなのに、私はおかしいのだろうか”と不安が募って、うつ状態に陥ってしまうこともあります」と伊東氏は話す。

やっちはいけないNG行動 (1) ささいなことで小言を言う

■よかれと思ってやらせる「脳トレ」も逆効果になることが…

脳トレを無理強いするという行為も、初期の認知症で家族がしてしまいがちな行動だと、伊東氏は指摘する。家族としては、脳の機能が落ちないように、あるいは元に戻るようにと、必死の思いで、脳トレ本などを買ってくるわけだが、子供がやるような計算ドリルをやらされることに、本人が乗り気でない場合も少なくない。

「認知症のご本人が、好きで脳トレに取り組むならいいのですが、周りがあれこれ強制すると、それがストレスになってしまいます。また、計算などは徐々にできなくなってくるので、最初は3ケタの計算ができていたのに、2ケタしかできなくなり、2ケタも難しくなるのを、計算ドリルをすることで本人に気付かせることになります。そうすると、ああ、こんなこともできなくなってしまったと落ち込んでしまい、それが、うつ状態を引き起こすきっかけにもなりかねません」と伊東氏は話す。

3ケタの計算ができなくても老後の生活は十分にしていける。それよりも「3ケタの計算ができなくなった」と落ち込むほうが、認知症の人にとっては悪影響なのである。

やっちはいけないNG行動 (2) 脳トレを強制する

■口論によるストレスを減らす工夫がお互いのため

「認知症の初期の段階で、ご家族に意識していただきたいのは、認知症は特別なものではないということ。年を取れば、うっかりゴミを出し間違えることなんてあるよね、とゆったりと構えることが大切なのです」と伊東氏は話す。

燃えるごみにアルミ缶が入っていたら、家族がこっそり出しておく。食器に泡がついていたら、こっそり水洗いしておく。家族がフォローすることで、口論が減る。口論を減らすことは、認知症の本人だけでなく、家族にとってもストレスを減らすことにつながる、というわけだ。

「そうはいつでも、ぶつかってしまうこともあると思います。そんなときは、自分を責めないことが大切です。またやってしまったと落ち込まれるご家族がいますが、家族だから、ぶつかってしまうのはしょうがないと思うことも大事です」と伊東氏。

■周囲に隠すデメリットより隠さないメリットの方が大きい

もうひとつ、初期の認知症に限らず、認知症全体に関わる大きな問題がある。それは偏見だ。近年、認知症の情報が、テレビや新聞、インターネットなどで紹介されるようになり、認知症に対する意識はだいぶ変わってきた。しかし、いまだに認知症に対する偏見があり、隠してしまう家族も少なくない。近所にはもちろん、地域包括支援センターや医療機関への相談もしない。

伊東氏は、「認知症は隠そうとすればするほど、苦しくなります」と話す。「狭い空間で、少ない家族と四六時中、一緒に過ごし、同じことを繰り返したり、聞かれたりするようになるわけですから、ストレスも大きくなり、口論も絶えなくなります」



やっではいけないNG行動(3) 家族が認知症であることを周囲に隠す

閉じ込めようとするほど、「逃げたい」という気持ちが強くなり遠くへ行こうとする傾向が(c) PaylessImages 123-rf

また、認知症を隠すということは、家に閉じ込めて出さない行為につながっていくと伊東氏は指摘する。

「例えば、アルツハイマー型認知症の場合、じっとしてられないという特徴があります。一人で勝手に外に出て、迷子になると困ると思って、家族がちょっと買い

物に行くときに、部屋に鍵をかけてしまうのです。本人はじっとしてられないのに、じっとしていなさいと言われるので、意地でも出ようとします。ドアから出られないなら、窓からという感じで、危険な出方をしてしまうこともあります。そして、そこから逃げようと思うので、遠くへ行く徘徊(はいかい)になってしまいます。閉じ込められる恐怖心がなければその辺を回って戻って来ることがあるのですが、閉じ込めようとすると、症状を悪化させてしまうのです」と伊東氏。

やっではいけないNG行動(4) 認知症の家族を家に閉じ込める

認知症が進行して生活障害が出てくるようになると、外から見ても変化が分かるようになる。その結果、近所から、「あの家はいつも大声でけんかしている」「ゴミがたまっているようだ」と苦情が出て、ようやく地域包括支援センターや行政が介入するようになる。

「認知症は、誰にでも降りかかってくる問題です。親、親戚、近所、自分自身になる可能性があるので、うちの母が、うちのおじいちゃんが、というように、ご近所同士で情報を提供し合い、助け合っていくことが、これからは必要になってくると思います」と伊東氏は話す。

■周囲に話すとサポートを得られやすくなる

周囲に話すことで、良好なサポートを得た例として、伊東氏は、「認知症になった女性の娘さんが、『父が認知症で外に出してしまうので、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、もし外で見かけたら、家に帰るよう声かけをしていただけないか』と、自治会の集まりでお願いしたケース」を紹介してくれた。

その男性は認知症になる前までは自治会長をやっていて人望も厚かったという。娘夫婦は共働きで、日中に家にいられない。見栄を張っている場合ではないということで、助けを求めたのだ。すると、「会長さんには以前お世話になったので、できることはやらせていただきます」と言って、多くの人が、声かけだけでなく、わざわざ家まで来て見守りをしてくれたり、話し相手をしてくれたという。

それだけでもありがたい話だが、地域の人々の協力を得られたメリットは、それだけにとどまらない。そのおかげで、娘さんがやらずに済んだことがあるのだ。それは「介護離職」だ。

「大切なのは、割り切れるかどうか。もし、協力を求めなければ、娘さんは仕事を辞めるしかなかったでしょう。しかし、介護で仕事を辞めてしまったら、介護が終わった後の生活はどうなるのでしょうか。その後の生活設計、自分の人生を考えたら、認知症を隠すのではなく、周りに相談する方が、利があることは明らかです」と伊東氏は話した。

■日ごろからのご近所との関係作りが生きてくる

伊東氏は「ただ、自分が認知症になった場合を考えると、以前から、ご近所と仲が悪ければ、協力など得られないでしょう。つまり、若いうちにどれだけご近所付き合いをうまくやってきたか、地域に貢献してきたかということも大切になってきます」と話した。

近年、子供の声がうるさいといった、ご近所トラブルも多いようだが、うるさいと怒鳴り込む前に、「待てよ？ 将来、助けてもらうかも」と考えたら、「元気がいいね。お母さんは大変ですね」と言えるのではないだろうか。(ライター 伊藤左知子)

【衝撃事件の核心】大ブーム転じて暗雲 高級リムジンパーティー「白タク営業」で関西最大手業者摘発…高速代ケチったのがあだに

産経新聞 2016年12月22日



すでに閉鎖された「絆コーポレーション」のホームページのトップ画面。ネオン輝く大阪・ミナミの街をリムジンが周遊する様子をアピールしていた

高級リムジンの車内でシャンパングラスを傾けながら都心を巡り、非日常の気分を味わえると若者らに人気の「リムジンパーティー」に黄信号がともった。自家用車と同じ白ナンバーのリムジンで営業許可を得ずに「白タク営業」を行ったとして、大阪府警が10～11月、道路運送法違反などの容疑で関西最大手の運行業者を摘発したのだ。客を乗せてリムジンで周遊する行為を白タク営業で立件するのは全国初といい、白タク営業が当たり前だった同業者は冷や汗をかいている。許可を得た緑ナンバー車でないと頻繁な定期点検や車検が義務付けられず、現在のリムジン業界は「安全」を後回しにしているのが実情だ。府警はそこに警鐘を鳴らした格好だが、果たして今後、業界は正常化への道へ進むのか。(井上浩平)

高級リムジンの車内でシャンパングラスを傾けながら都心を巡り、非日常の気分を味わえると若者らに人気の「リムジンパーティー」に黄信号がともった。自家用車と同じ白ナンバーのリムジンで営業許可を得ずに「白タク営業」を行ったとして、大阪府警が10～11月、道路運送法違反などの容疑で関西最大手の運行業者を摘発したのだ。客を乗せてリムジンで周遊する行為を白タク営業で立件するのは全国初といい、白タク営業が当たり前だった同業者は冷や汗をかいている。許可を得た緑ナンバー車でないと頻繁な定期点検や車検が義務付けられず、現在のリムジン業界は「安全」を後回しにしているのが実情だ。府警はそこに警鐘を鳴らした格好だが、果たして今後、業界は正常化への道へ進むのか。(井上浩平)



1時間10万円で「リムパ」

「複数のリムジンで身体障害者手帳の割引を何度も受けている会社がある」。西日本高速道路から3月、こんな情報が寄せられたのをきっかけに、大阪府警は水面下で捜査を始めた。

リムジンを運行していたのは、大阪府摂津市の自動車関連業者「絆コーポレーション」。リンカーンやハマーなど全長6～9メートルの高級リムジンを最大で5台保有し、関西のリムジン業界では最大手とされていた。

客を乗せて大阪や京都、神戸など夜の街を周遊。実際は摂津市に事務所があるだけだが、名古屋にも支店があるように装い、中部地方でも運行していた。

リムジンの後部座席には6～8人が対面で座ることができ、客はレーザー光線とネオンに彩られた薄暗い空間でシャンパングラスを傾ける。高級感を演出しようと、レッドカーペットの貸し出しも行ってた。

利用料金が最も高い車種は、1台あたり平日でも1時間で10万円を「演出サービス料」の名称で請求。客の多い土日や祝日の料金は「要相談」としていた。客は利用人数で分担するのが一般的で、1人数万円を支払っていたようだ。

捜査関係者は「非日常の気分が楽しめると若者らに人気だった。車内では『リムパ』と呼ばれるリムジンパーティーが開かれていた」と話す。

「消えるボールペン」も悪用

今年1～9月に493回運行し、約2570万円を売り上げるなど、平成27年2月の運行開始から、リムパブームに乗って順調に業績を伸ばしてきた絆コーポ。だが、高速代をケチったことがあだとなった。

府警高速隊や交通捜査課などは10～11月、偽造した身体障害者手帳を使って高速代の支払いを免れるなどしたとして、詐欺や偽造有印公文書行使などの容疑で、代表の男(3

5) や運転手ら計6人を逮捕。府警の調べに対し、代表は「経費を1円でも浮かしたかった」と供述した。代表自身が身体障害者手帳を所持しており、高速道路の料金所で手帳を示せば、通行料が半額になる割引を悪用することを思いついたのだという。

自分の手帳だけでなく、紛失したと嘘をついて再交付を受けた上、さらに友人の防水業の男(43)＝詐欺幫助(ほうじょ)容疑で逮捕＝からも借りて計3冊を用意。高速道路を通行する際に運転手の21～33歳の男ら4人＝いずれも詐欺容疑などで逮捕＝に使用させていた。

捜査関係者によると、男らは料金所で必ずモニター付きの自動収受機が設置されたレーンを通過。手帳にその日運転しているリムジンの車番などを記入してモニター越しに提示し、係員の目を欺いた。

当初は白い修正液を使って手帳に上書きを繰り返していたが、「何度も書き過ぎてインクが乗らなくなった」(代表)ため、こすった熱で文字が消えるボールペンを使う悪知恵まで働かせた。

広告塔…テレビ番組にも堂々登場

近年、リムジン業者は当たり前のように街中を走っているが、「摘発は以前から狙っていた」と捜査関係者は明かす。

警視庁は19年3月、高級リムジンを使って無許可でハイヤー営業をしたとして、道路運送法違反(白タク)容疑で、東京都杉並区の会社の社長らを逮捕。自家用車と同じ白ナンバーで結婚式後の新郎新婦や誕生日のデートなどの客を搬送しており、社長らは「(営業車両が付ける)緑ナンバーを付けたんじゃ高級感が出ないと思った」などと供述していた。

だが、その後もリムジンの白タク行為は横行。テレビのバラエティー番組や雑誌などで「リムパ」が紹介されることも増え、全国的なブームとなっていった。

大阪府警の捜査関係者は「警視庁の事件の後、リムジンを大阪のミナミやキタでも見かけるようになったが、すべて白ナンバーで看過できなかった」と話す。

中古でも200万～800万円はするというリムジンを複数台保有する絆コーポは、関西のブームの牽引(けんいん)役だった。

関西ローカルのバラエティー番組で紹介された代表は、成功への夢を抱き、九州から現金10万円を握りしめて大阪にやってきたという思い出話を披露。「リムジンに客として乗ったときに感動し、自分もこの仕事を始めた」と熱く語るなど、自ら広告塔となって事業拡大に勤しんでいた。

「移動はサービス」苦しい弁明

府警によると、結婚式場やホテルがリムジンやバスで客を運ぶことは珍しくないが、これは違法ではない。主目的は結婚式場やホテルを利用してもらうことであり、搬送の対価を受け取っていないためという。

だが、絆コーポをはじめとする白ナンバーのリムジン業者は違う。客の希望の場所で客を乗せて夜の街を巡り、出発地などに戻って下車させている。周遊の対価として料金を請求していることは明白だが、リムジン業者は「主目的は客の写真や映像を撮影することであり、リムジンでの移動はあくまでもサービス」と主張しているのだ。

絆コーポも同じ手口で、「客の記念撮影」を主目的とする体裁を取っていた。ホームページでは「リムジン演出サービス」をうたい、料金を提示していたが、カメラマンはおろか撮影器具すら積んでいなかった。

国土交通相と営業区域の運輸局長の認可を得て、緑ナンバーを取得すれば問題はないが、3カ月ごとの整備点検や年に1度の車検が義務付けられ、第2種運転免許を持つドライバーでなければ運転できない。タクシーなど緑ナンバーの車両は飽和状態で新規参入が難しく、さまざまな面で費用もかさむことから、リムジン業界では白タク営業が横行しているようだ。

ホームページで「緑ナンバーで運行」をアピールしている大阪市内のリムジン会社の担当者は、産経新聞の取材に対し「以前はそう(緑ナンバー)だったのですが、現在は宣伝

などの撮影用のリムジンだけが緑ナンバーです…」とだけ答え、それ以上の質問には応じなかった。

無車検・無保険も発覚

リムジン業者の関西最大手がターゲットとなった今回の事件。客を乗せて周遊する営業形態を白タク営業ととらえて立件したのは全国初だったが、逮捕の報に慌てたのは同業者だ。

近畿運輸局には、他のリムジン業者から「緑ナンバーはどうやって取得すればいいのか」といった問い合わせが複数寄せられている。

府警の捜査で、さらに絆コーポのずさんな実態が明らかになった。所有するリムジン5台のうち1台は車検と自賠責保険が切れたまま運行していたのだ。府警は違法行為には厳格に対処するとして、「捜査終結」宣言後にもかかわらず、道路運送車両法違反容疑などで代表を追送検した。

また、無車検でない別のリムジンが9月下旬、京都市内の路上でパーティー中、前部ライト付近から出火して半焼。女性客ら約10人が逃げ出す騒ぎまで起こしていた。

「無車検・無保険の車が重大事故を起こしていたら補償はどうなっていたか。白タク行為などで利益ばかりを追求し、乗客の安全をないがしろにした運営を行っていた」。捜査関係者は厳しい表情で語った。

福祉医療費助成負担据え置きを 共産府議団が要望 大阪日日新聞 2016年12月22日

共産党大阪府議団は21日、2017年度の府予算編成への要望を新井純副知事に伝えた。医療費の助成対象を精神障害者などに拡大する代わりに、現行の対象者の自己負担額を引き上げる方向で検討してきた府の「福祉医療費助成制度」について、現行のまま負担を据え置くよう求めた。

府は身体障害者やひとり親家庭、就学前の乳幼児などを対象に全市町村と折半して医療費を助成している。重度の精神障害者と難病患者への適用範囲の拡大に伴い、増大する制度の維持費を賄うため、自己負担の月額上限を2500円から4500円程度に引き上げ、同じ医療機関での月3回目以降の入通院費無料は廃止する方向で検討。来年11月の導入を目指していた。

ただ松井一郎知事は14日の府議会で、子どもの貧困対策として、ひとり親家庭と乳幼児の負担を据え置く考えを表明。これを踏まえ、新たな制度設計を来年1月中にまとめる。

要望活動ではほかに府が掲げる国際博覧会（万博）やカジノを含む統合型リゾート（IR）の誘致に反対した。

幼児教育 無償化へ 府内初、守口市が来年度から 大阪日日新聞 2016年12月22日



大阪府の守口市議会は21日、0～5歳の幼児教育・保育料を所得制限を設けずに無償化する条例案を賛成多数で可決した。来年の2月市議会で予算案が可決されれば、来年4月1日からスタートする。全国的に進む少子高齢化に歯止めをかけ、市民の定住を促進するのが狙い。市こども部によると市レベルでの完全無償化は珍しく、府内では初めて。

幼児教育、保育料の無償化について説明する西端市長＝21日午後、守口市
対象は認定こども園や保育所、幼稚園、小規模事業所に通う市内の0～5歳児で、約4千人。無償化に必要な予算は約6億3千万円を見込んでいる。

市は公立保育所の民間移管を進めており、現在ある公立の15施設（認定こども園1、保育所10、幼稚園4）を2018年度

で認定こども園3施設に再編成する方針。これに伴う効果額約8億5千万円を中心に、無償化の財源とする考え。

また、10月1日時点で303人となっている待機児童（厚生労働省定義外の申し込み児童も含む）の解消に向けた取り組みも促進。現在、小規模保育事業所を公募しており、新年度から新たに8事業所の開設を目指して準備を進めている。

西端勝樹市長は「無償化の効果が来年度からというのはなかなか難しい」と分析した上で、「将来的には守口から転出した若者も子育て世帯として帰ってきてくれるのではないかと」期待していた。

帝京平成大 私立大学で初、特別支援教育の全領域の免許取得可能に

毎日新聞 2016年12月22日

小学校・特別支援コースの授業の様子



帝京平成大学現代ライフ学部児童学科の小学校・特別支援コースに開設されている特別支援学校教諭課程で、2017年度から特別支援教育の全領域の教員免許が取得できるようになる。11月28日付で文部科学省から認定された。

現在の知的障害者と肢体不自由者、病弱者の領域に加え、視覚障害者、聴覚障害者の領域が追加される。五つの全領域で取得可能なのは特別支援

学校教諭課程がある私立大学として全国で初めて。「意欲的に学びたい学生に全国から集まってほしい」と入試担当者は話している。

自宅での看取りもサポートする特養 『利用者第一』で希望に応える

福祉新聞 2016年12月22日 編集部

体圧分散マットレスやクッションで安楽な寝姿勢を保持する

愛知県高浜市の特別養護老人ホーム「高浜安立荘」（中村範親施設長）は、希望者全員を施設で看取っている。「出会ったときから看取りケアは始まる」という共通認識の下、全職員が利用者の希望に沿った支援を徹底。自宅での看取りを希望する場合は、体圧分散マットレスを貸し出すなど最期の望みをかなえるために力を尽くしている。



社会福祉法人昭徳会が1993年4月に開所した高浜安立荘は、定員100人（平均要介護度3・6）の従来型特養ホーム。「寝たきりにしない・させない」「生活習慣を大切に」「個性・主体性を引き出す」をケアの3原則とし、開所時から看護師中心に看取りケアに取り組んできた。

看取りケアは2004年に看護師や介護職員など15人からなるプロジェクトチームを立ち上げ、施設の方針として明確にしたことで本格化。しかし、介護職員からは「人が死ぬときにどんな経緯をたどるのか分からない」「看取り期に何をすればよいのか」などの不安が寄せられた。

そこで同チームは看護師の小西由香里次長を中心に、多職種連携の看取り体制を整えるとともに、看取り期の身体変化やそれに応じた対応方法などを文章化したマニュアルを作成。その中で確認されたのが「最期のときだけが看取りケアではない。出会った（施設に入ってきた）ときから看取りは始まる」という共通認識だった。

また06年には、施設の方針を理解してくれる石川亨・つばさクリニック院長が嘱託医を

引き受けてくれたことで、早朝・夜間でも看取りが可能になった。石川院長の協力で、05年度に7件だった看取り数は06年度に14件、07年度に16件と大幅増。看取りケアは徐々に定着していった。

希望者すべてを施設で

看取りケアは、入所時に利用者や家族に施設の方針を説明し、どんな生活を希望するかを聞くところから始まる。「墓参りに行きたい」という人は可能な限り職員が同行し、「家族と過ごしたい」という人は家族と一緒に外出や自宅への外出を援助する。

一方、希望する生活ができるように残存機能を生かし、自立度を高めるケアにも努めている。基本はベッドから離床して過ごし、排便はトイレやポータブルトイレで行えるよう支援。食事は1人でも食べやすいように個々に合った高さにテーブルとイスを調節する。また、自分の足で歩くことを重視し、ワンタッチで高さ調整ができる日進医療器(株)の歩行器「トレウオーク」などを使い、歩行訓練も勧めている。



歩行器を使い自立度を高める

そして食事が半分以下になることが5日続くと、石川院長、家族を交えて現状と治療方針を話し合い、施設での看取りを再確認した場合はターミナル期と判断される。「施設での看取り希望は入所時も看取り期も90%で変わらない」と小西次長は話す。

看取り期に入ってもケアの基本は大きく変わらないが、(株)パラマウントベッドの体圧分散マットレス「マキシフロート」を始め、エアマットレス、クッション、ティルト・リクライニング車イスなどを使って安楽な姿勢保持に努める。使っている福祉機器の数や種類は多くないが、それを効果的に活用している。

施設での看取りを希望した利用者は11年度25人、12年度21人、13年度26人、14年度14人、15年度12人。そのすべてを施設で看取っており、うち5人は「最期は自宅で介護をしたい」という家族の希望に応え、自宅での看取りをサポートした。

人によって高さの違うテーブルやイスで安楽な姿勢に

自宅での看取りは、これまでの家族関係などから家族の意向を確認して実施。施設の車で自宅に送り、体圧分散マットレスや吸引器を貸し出したり、職員が交代で訪問したりする。また、自宅介護が長くなると迎えに行き、施設で入浴して、再び自宅へ送るなどの対応もしている。



「施設で看取るのは当たり前。最期のときまで何ができるかを考え、利用者と一緒に実現するのが介護の仕事」という中村施設長。利用者が亡くなった際には、全館放送で呼び掛け、利用者や職員が玄関で見送る。通夜や告別式に参列して日々の様子や思い出話を伝えたりもしている。

希望に応え、施設はもとより自宅での看取りまで支援する高浜安立荘。“利用者第一”の思想とケアはもっと普遍化されるべきだろう。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

